

学習効率を高めるための指導法

中学2年の被服製作のうち休養着の製作について

服 部 晴 子

1. はじめに

教育の現代化が各教科ごとに研究され、実際の教育活動において効果のあげられている折から、技術家庭科における現代化については実際にそれらが身をもって感じられない。これはどういうことを意味しているのか。家庭科には現代化が考えられないのか。それとも家庭科はもうすでに現代的であるのか。それならばなぜ現実においてもっと興味感心をもって受けとめられないのか。

自分をふり返ってみると、毎日の授業には教材によく精通するのが第一であり、どうしたら面白く授業が進められるのかということを考えて過してきたと思う。しかし現行のものに何かしら物足りなさ、あるいは全々期待に反したものを感じ、時々やりきれない、満たされない気持を感じる。

高校で学習する「家庭一般」の中で乳幼児の保育の単元を終えて感想を聞いたところ、多くの生徒が考えていることは、「今こうして習っても何年か先、実際に子供を保育する時には忘れてしまっているのではないか？ 忘れていても役に立つものだろうか？ 主婦になってから学んだ方が効果的ではないか？」という答であった。それでももう少しこまかく調べてみると、

この単元の中で「育て方」(これが主流である)には興味を示さないが、家庭環境の中で親の態度とこどもの性格形成、および育児と結婚の領域にはこれらの生徒にも熱心な態度をうかがうことができたのである。いかにいえば生徒の現実の生活に直接結びついたもの、たとえば性格形成とか性そのものについての知識およびこどもを生むことなどには正確な知識を得たいという態度であった。ということはこうしたものを通り過ぎて先のこと(育て方)を学習することは主婦が必要とすることをしていることになる。もっと実際に生徒の学習したいと要求しているのは何かを考えることが必要であると思う。効果が遠い将来に発揮されて、現実には速効的でなく、現在生徒が要求しているものではないことは、この科学技術の進歩のはげしい時にふり向かれないのが、当然な事ではないだろうか。

今回は調理実習の次に2番目に身近なものとして受取られている被服製作について考えてみた。自然や人生からみつけ出した美を自分の手で表現することは素晴らしいことである。製作を通して物の見方、考え方を意義あるものとし、日常の生活の要求にあった状態に少しでも近づけたいとねがったものである。被服製作をはじめて3年、その間年度ごとに実践した方法を書いてみたいと思う。

2. 休養着の製作における題材および製作時間

年 度	題 材	製 作 月 日	時 間
4 1	パ ジャ マ (実物大型紙使用)	9 月 ~ 11 月 15 日	3 2
4 2	パ ジャ マ (えりなし、そで付をする) 条件	9 月 ~ 12 月 15 日	4 3
4 3	パ ジャ マ または ひ と え 長 着 女 物	9 月 ~ 11 月 18 日	3 4

3. 指導の経過

A. 41年度は中学1年に製作したブラウスを基礎に同じ型紙を使用して全員同じ型のパジャマとした。4名ずつのグループをきめ、お互いに技術を高め合う

よう授業の終わりにその時間の反省を5分間持つようにした。心がけたのは各自のサイズより大きい型紙を選ぶこと、また洗濯をしてもいたみの少ない縫いしろの仕末についてのみであった。製作時間は32時間の計画で9月の始めからとりかかり11月の中旬に

仕上げとした。全員ほとんど完成が同じであった。

B. 42年度は41年度と同じ型紙を使用して各自の好みに変化させることにし補正の時間を増し個性を出させることにした。レース、フリル、リボン装飾が多く、上衣もズボンも教科書のスタイルからは離れ、洗濯のしにくいものもできた。中には胸から首にかけてのレースの取付けに10時間を要した者も出てどうなることかと心配した。最後には教師の手を借りたもの数名あったことも記すが、しかし中3になってワンピースの製作においてはその応用力が発揮された、各自の能力も自覚し、すべて自分自分の手で製作したことは、中2のパジャマ製作がその基礎になっていることが明らかであった。製作中も楽しげであり、毎時間に張りがあり生徒対教師の間にも色々な会話がとりかわされた。指導においては個人的になり、進度の早い者が基準になり、毎時間掲げる黒板に記された目標をめざして真剣であった。また、 $\frac{1}{10}$ に縮尺された各自の型紙で用布においてみたことにより布の購入についての問題がほとんどなかった。



41年度 (全員)

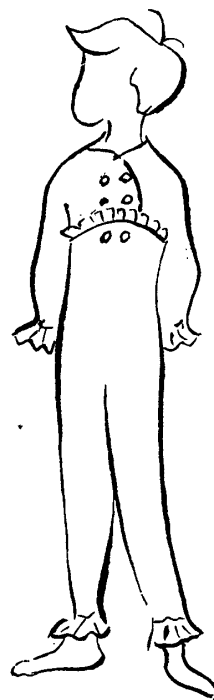


42年度 (一例)

C. 43年度は調査したり話し合ったりした結果、パジャマの製作を原則にして希望者のみに、ひとえ長着女物の製作と両者並行にして扱うことにした。その場合、教材を2種類扱うのであるから、どうしたら両方うまく時間内に製作が可能になるかを考え、一応の製作過程における作業をこまかくわけて各自がそれに合わせて進むことにした。ひとえ長着女物の製作は、人数も全体の $\frac{1}{3}$ であり、従来のグループ学習と個人指導の型とすることにした。ひとえ長着は保護者の要望もあり、いわゆる「ねまき」とした者は2名だけで残り10名は日常着としての「ゆかた」ということになった。製作時間は平均34時間で、家庭での作業が0.5～4時間という結果になった。家庭科準備室に個人用のロッカーを用意し、一つのロッカーに2名ずつ保管することにしてあるため、作業は学校であることを原則にしているのを忘れたことがないが43年度は家庭学習も許したため一回忘れた者3ありこれも問題であることを感じた。又42年度の $\frac{1}{10}$ の縮尺での布のつくり方をしなかったため、布の購入についての質問が多く、あらためて大切なことを知った。



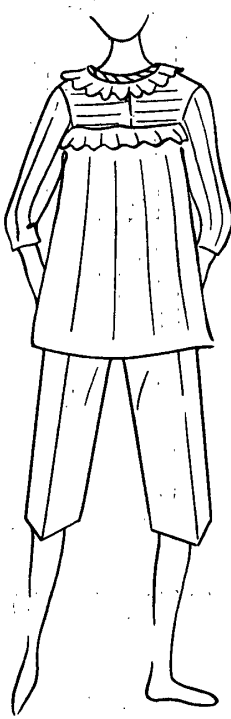
43年度 (12名)



43年度 (一例)

休養着製作実習表例

年 組 番 氏名

	用布	用布名	胸まわり	82cm	内 訳	数 量	費用円			
			背 た け	38				布	350cm (巾90)	600
			上 衣 た け	62				レ ー ス	200cm	400
			長そでたけ	52				バイアステープ	200cm	25
			ズボンたけ	95				ゴ ム ひ も	200cm	20
			腰まわり	86				ス ナ ッ プ	1コ	0
			また上	28				計		1,045
			時間	製作計画				月 日	時 間 <small>授 中 その他</small>	
4	1. 裁ち方 地直し 布目を正しく するしつけ									
4	2. 仮縫いと補正 上 衣 ズボン									
14.5	3. 本 縫 上 衣 ポケット 肩 えりぐり そでつけ そで下わき縫 そで口 す そ ボタンホール ズボン また下 また上 胸まわり す そ									
0.5	4. 仕 上 糸くず ボタン ゴムヒモ アイロン									
感想			合計時間		反省					

4. 43年度製作課程における作業

(1) 目 標

休養着の製作を通して基礎的技術を習得する。

小 目 標

- ① 各自に適した型紙を選び好みに補正することができる。
- ② 寸法に合わせて用布の見積りができる。
- ③ 休養着に適した布地を選択することができる。
- ④ 布地の表裏をみわけることができる。

- ⑤ 布地に型紙を正しくおくことができる。
- ⑥ 布目のたて、よこの使用が正しくできる。
- ⑦ ルレット・チャコ等の使用が正しくできる。
- ⑧ 布地に適したしるしつけができる。
- ⑨ 布地を正しく切ることができる。
- ⑩ 合理的に部分の布を縫い合わせる事ができる。
- ⑪ 縫法ミシンの正しい使用ができる。
- ⑫ そでつけが正しくできる。(前後)
- ⑬ バイアステープの使用が正しくできる。

- ⑭ わき縫いをつらせないで正しくできる。
- ⑮ 縫い終り、縫いしろの仕末が正しくできる。
- ⑯ 正しくアイロンをあてることができる。
- ⑰ 縫いしろの仕末などから丈夫さの評価ができる。

(2) パジャマの製作を構造化する (その1)

上衣は胸まわりを基準に、ズボンには腰まわりを基準にして型紙を選び、それをもとにする。

A. 休養着の特徴を知る

- ① 着脱衣のしやすいこと。
- ② 体をしめつけずゆったりとしていること。
- ③ よく洗濯をすること。
- ④ 着ることによって楽しくなること。

B. 型紙を自分の体に合わせて補正する。

- ⑤ 胸まわりをはかる。
- ⑥ 腰まわりをはかる。
- ⑦ 夏、冬どちらのものにするかきめる。
- ⑧ 縫いやすい装飾を考える。
- ⑨ ポケットの有無を考える。

C. 布地をみわける。

- ⑩ 布の種類をみる。
- ⑪ 布の吸湿性をみる。
- ⑫ 布の染色、模様をみる。
- ⑬ 布の表裏をみる。
- ⑭ 布の肌ざわりをみる。
- ⑮ しわになりにくいかをみる。
- ⑯ 水ぬれに強いかをみる。
- ⑰ 縫いやすい布かをみる。
- ⑱ 地直しの必要の有無をみる。

D. 布地を買う。

- ⑲ 布の巾 (90cm) を調べる。
- ⑳ 必要な寸法を調べる。
- ㉑ 薄いか厚いか調べる。
- ㉒ 価格の適正を考える。

E. 布地に型紙をおく。

- ㉓ 布目のたて、よこをたしかめる。
- ㉔ 模様に合わせておいてみる。
- ㉕ 型紙の組み合わせを考える。
- ㉖ 縫いしろの部分の多少を調べる。

F. しるしをつける。

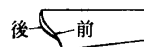
- ㉗ しるしが表にすかしてでるか調べる。
- ㉘ 布に適したしるしつけを考える。
- ㉙ しるしが消えない工夫をする。

G. 布地を型紙に合わせて切る。

- ㉚ 左右対称になるかたしかめる。
- ㉛ 重ねて他の布を切らないかたしかめる。
- ㉜ ぬいしろを充分とっておく。

H. 部分の布の組み立て方。

- ㉝ ダーツ・ポケットをつける。
- ㉞ その前、後をたしかめる。
- ㉟ 縫いしろの仕末を考える。
- ㊱ 各部分の布をたしかめる。



I. 縫い合わせる。

- ㊲ しるし通りに縫う。
- ㊳ 布の端から端まで縫う。
- ㊴ えりぐりはでき上りのところで縫う。
- ㊵ ズボンのまた上、また下をたしかめる。

J. 着てみる。

- ㊶ 小さすぎ又は大きすぎるところを調べる。
- ㊷ 着方、見方を考える。
- ㊸ 待針を4~5本用意する。

K. ミシンを調整する。

- ㊹ 布に適した針、糸を考える。
- ㊺ ためし縫いをする。
- ㊻ 針目の大きさを考える。
- ㊼ 正しく前後送りができるか調べる。

L. ぬいしろの仕末を工夫する。

- ㊽ 表、裏どちらにも裁ち目のできないようにする。
- ㊾ 布の厚み、質によって方法を考える。
- ㊿ またの下、わきの下を考える。

M. バイアステープを作る。

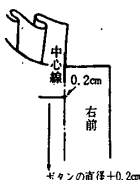
- ① 正バイアスになるようにする。

- ⑤② バイアスをつなぎ合わせる時には気をつける。
- ⑤③ 使用場所によって巾を考える。
- ⑤④ 厚い布は共布で作らないようにする。
- ⑤⑤ バイアステーブを引っぱらないようにする。



N. ボタンホールを作る。

- ⑤⑥ ボタンの大きさを調べる。
- ⑤⑦ ホールを大きくしすぎない。
- ⑤⑧ 針目の長さを考える。
- ⑤⑨ 糸のかけ方、ひき方に気をつける。



O. 本縫作業。(上衣)

- ⑥⑩ ダーツ、ポケットを縫う。
- ⑥⑪ 肩を前後縫い合わせる。
- ⑥⑫ えりぐりを仕末する。
- ⑥⑬ そでをつける。
- ⑥⑭ そで下、わき下を続けて縫う。
- ⑥⑮ そで口を三つ折にして縫う。
- ⑥⑯ すそを三つ折にして縫う。

P. 本縫作業。(ズボン)

- ⑥⑰ また下を左右縫う。
- ⑥⑱ また上を前後続けて縫う。
- ⑥⑲ 胴まわりを三つ折にして縫う。
- ⑥⑳ すそを三つ折にして縫う。

Q. 仕上工程。

- ⑦① ゴムひもをズボンの胴まわりに通す。
- ⑦② ボタンをつける。
- ⑦③ 糸くずをとる。

R. アイロンをかける。

- ⑦④ あて布を用意する。
- ⑦⑤ アイロン台、アイロンを用意する。
- ⑦⑥ 布に適した温度に調節する。

(3) 構造化(その2)

1. 型を選択する…①—②—④—⑦
2. 布を選択する…③—⑦—⑩—⑪—⑫—⑭—⑮—⑯—⑰—⑱
3. 材料の見積もり…⑤—⑥—⑧—⑲—⑳—㉑—㉒
4. 裁つ…⑧—⑬—⑱—㉒—㉓—㉔—㉕—㉖—㉗—㉘—㉙—㉚—㉛—㉜—㉝—㉞—㉟—㊱—㊲—㊳—㊴—㊵—㊶—㊷—㊸—㊹—㊺—㊻—㊼—㊽—㊾—㊿
5. 仮縫い…⑰—⑳—㉑—㉒—㉓—㉔—㉕—㉖—㉗—㉘—㉙—㉚—㉛—㉜—㉝—㉞—㉟—㊱—㊲—㊳—㊴—㊵—㊶—㊷—㊸—㊹—㊺—㊻—㊼—㊽—㊾—㊿
6. 補正…④①—④②—④③
7. 本縫
上衣〔O〕—④④—④⑤—④⑥—④⑧—④⑨—〔N〕
ズボン〔P〕—④④—④⑤—④⑥—④⑧—④⑨
8. 仕上…⑦①—⑦②—⑦③—⑦④—⑦⑤—⑦⑥

毎時間学習したことを授業の終りに3～5分間たしかめるためにとり、教師の発問により指名された生徒が答えるようにした。しかし各自がスタートは同じでも5～6時間もすぎると進度が色々異なり最初の計画通りにはできなかった。途中で発問に対してまだ実習していない生徒が出てくるようになりやめた。結果は41年度のような計画の時間数で、42年度のような製作実習がある程度可能であったと思う。計画が不十分で、教師もとまどうことが度々でてきて修正を要するところが多くでた。

(5) 41～43年度にパジャマを実習した生徒の実態調査

製作年度		41年度(現高1)					42年度(現中3)					43年度(現中2)						
調査人数		29名					36名					34名						
休養着の持数	枚数	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	10
	パジャマ	5	3	8	6	6	1	8	9	12	4	2	7	10	8	1	3	1
	ネグリジェ	6	7	2	1		7	10	5	1		9	9	5	1	1		
ゆかた	10	2				19	5	3	1		13	7	1	2	2		(20) 1	
被服製作において役に立っているもの	中1のブラウス	1					1					7						
	中2の休養着	14					17					27						
	中3のワンピース	2					18					—						

	高2のスカート	12	—	—
技術・家庭科での被服製作について	必要である	16	36	34
	必要ない	5	0	0
	無解答	8	0	0
家庭で実習後作ったか	作った	3	5	0
	作らない	26	31	34

休養着の持数は平均4～6枚でパジャマの使用率が高いようである。又中2でゆかたを20枚持っているのは日本舞踊をしている者で特殊な例である。又41年度（現高1）のワンピースはわずか2名が役に立ったのに対して42年度（現中3）は36名中18名で50%の者がよかったとしている。しかし休養着は全体として50%以上であるから実習例としては最も適していることもわかった。

おわりに

3年間にわたって中2の被服製作をみてきて感じたことは、1年目には時間内に製作可能であること、2年目は思いきり各自の好みに、3年目は、短時間で各自の好みを取り入れることという教師の気持が、生徒によく伝わることであった。そして最初に変ったことを1人がすると、次々皆真似をすることを知った。たとえば、41年度はえりなしでバイアス処理の上衣が多く、42年度はレースを使用した者が多く、43年度は共

布で、フリルをつけることが流行した。学習効果は実態調査からもみると、41年度と42年度を比較した時、42年度の方が時間数は多くなったけれど、思考し創造する力が多く出て、中3のワンピース製作により、その効果が現われたように思う。43年度は実習を終へたところで、何の調べもついていないので次の機会にしたい。

家庭科は生徒の中にどのようなものとして残るのかと思う時、現実に自分の育った家庭の環境が大きく左右することはたしかであるが、女性として真に主体性をもって家庭生活を創造する力や態度が養われるようにしたい。新しい社会の創造者として主体性もてる人に教育することが、家庭科教育の現代化につながるものではないかと考える。

〈参考〉

中学校技術・家庭科指導の実際（女子向） 第二年
家庭科教育 43年10, 11, 12月
学習指導法の研究 全国職業教育協会